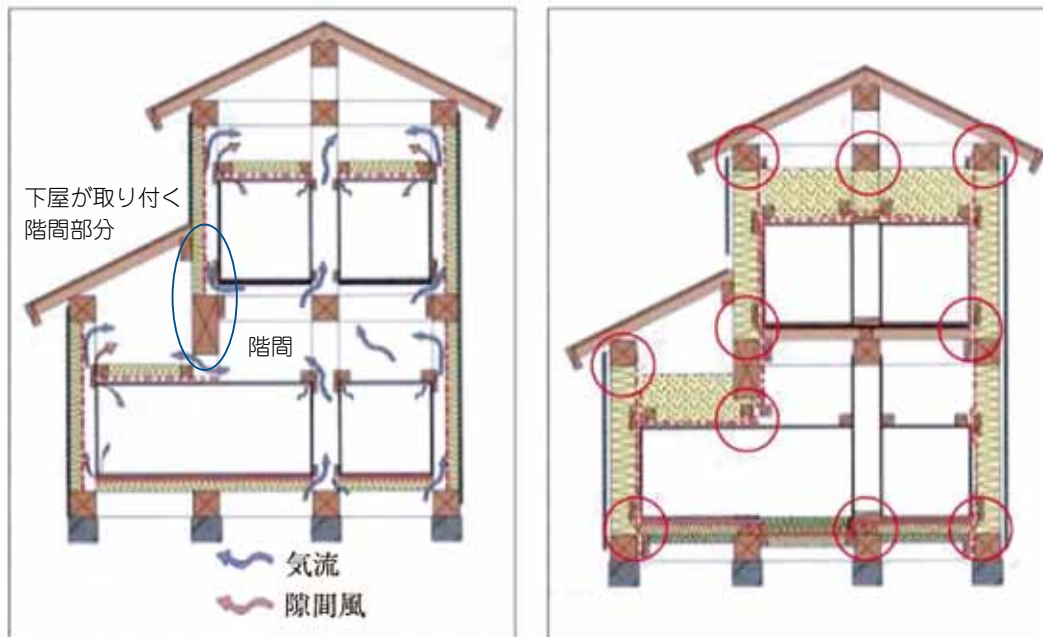


第3章 省エネ断熱改修の設計

3.1 省エネ断熱改修の考え方

省エネ断熱改修における各箇所の施工上のポイントを整理します。省エネ断熱改修をおこなうには、断熱層を連続させて断熱欠損部分を作らないような注意が必要で、かつ、気流止めをおこなうことが有効です。また、改修にあたっては躯体構造や雨水の浸入などの影響がでないように十分な注意が必要となります。



従来のも在来木造工法
(気密層、気流止め両方なし)

充填断熱工法でのポイント

特に外周壁と床の取り合い部。



図 3-1 断熱層の考え方

【外壁～天井】

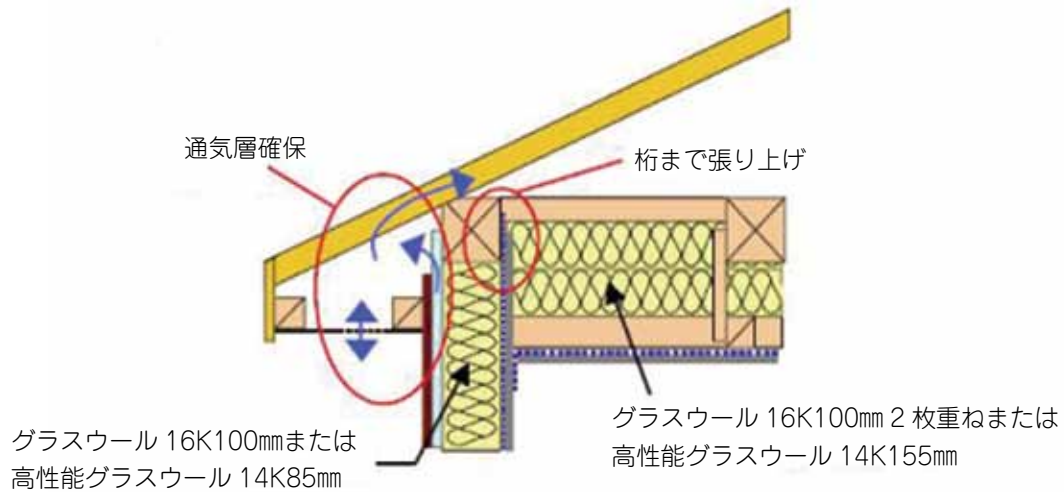


図 3-2 外壁・天井部の断熱

- ・ 外壁のグラスウールは桁まで張り上げ、フィルムの耳をボードで留め付けます。
- ・ 長さを詰める場合、所定長さ+ 50mm程度でカットします。
- ・ グラスウールの防湿気密フィルムを面材等で押さえ、ビス等で 150mmピッチで留め付けます。
- ・ 外壁および小屋裏に通気層を設け、通気が害されないように注意します。

【床～外壁】

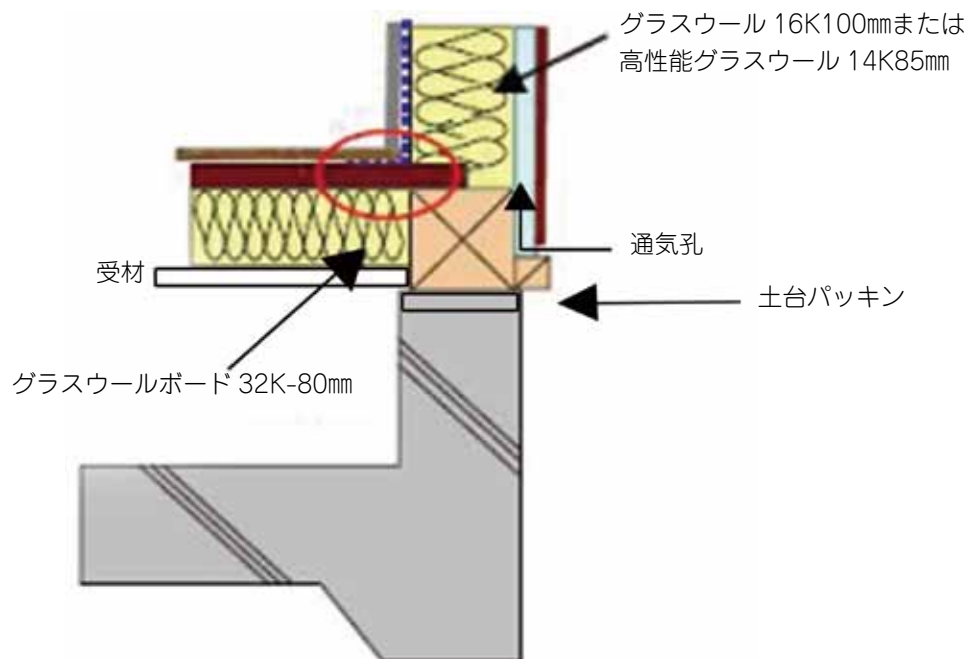


図 3-3 床・外壁部の断熱

- ・ 床合板の継ぎ目で下地のない部分は、気密テープを施工します。
- ・ ピンを大引に約 350mmピッチで片側 5 箇所目安に取り付けます。